提出日: 令和3年1月6日

学習フィードバックシート

プロジェクト名: ロボット型ユーザインタラクションの実用化-「未来大発の店員ロボット」 をハードウエアから開発する-

グループ名: グループ C

担当教員名:三上貞芳、鈴木昭二、高橋信行 学籍番号 b1018247 氏名 普久原朝基

1. 自己評価

評価項目	自己評価 (点数/満点)	評価基準
出席	10 /10	無断欠席回数: ・ 0回(10点) ・ 1回(5点) ・ 2回(0点)
週報	10 /10	標準点:7点すべて提出したか? 不備はないか?提出期限は守られているか?報告事項の内容は十分か?
グループ報告書	9 /10	標準点:7点 ・ 誤字、脱字はないか?様式、体裁は整っているか? ・ 十分な記述量があるか? ・ 内容に矛盾がなく、再現性や合理性があるか? ・ 客観的な記述がされているか?
発表会	8 /10	標準点: 7点 ・ ポスターはわかりやすいか? ・ 聴講者に理解してもらえたか? ・ 説明方法は適切であったか?
外部評価	8 /10	標準点: 7点 ・ 発表会やアンケートを通じた外部からの意見の評価・検討を十分行ったか? ・ 外部意見を課題解決策に反映することができたか? ・ 自分勝手な課題解決策になっていないか?
積極性・協調性	8 /10	標準点: 7点 ・ 自ら積極的に課題を設定したか? ・ 自ら積極的に課題の解決策を考案したか? ・ 自ら積極的に課題を解決したか? ・ 課題設定・解決のために議論を十分行ったか? ・ メンバーとお互いに協力し合ったか?
計画性	12 /20	標準 14 点 ・適切な作業計画を立てることができたか? ・適切な作業分担を行えたか? ・計画通りに作業を進めることができたか? ・必要に応じて柔軟に計画を修正できたか?
成果	16 /20	標準 14 点 ・プロジェクト遂行に必要な知識・技術を獲得できたか・プロジェクトへの貢献は十分であったか自分たちが納得できる成果が得られたか?
合計点	81 /100	

(注)週報の不備を、システム情報科学実習のホームページ→週報の提出確認のページから確認すること.

2. 理由

自分自身で上記の点数の評価を行ってください。その根拠はどういうものであるのかについて **10 行程度**の理由を述べてください。

私が、この学習フィードバックの自己評価で上記のような点数にしたことについて述べる。まず、出席と個人週報、グループ週報について、毎回出席し週報もほぼ毎週提出していたのでこの点数である。グループ週報については一度水曜日のプロジェクト学習開始の30分前に提出したことがあったので1点減点の9点とした。次に、発表と外部評価について、質問時やアンケートにお褒めの言葉が多かったのでこの点数をつけさせてもらった。しかし、個人的には発表での質問に全て答えきれていなかった質問があったのでそこは減点であると判断した。次に、積極性・協調性と計画性について、グループメンバーと協力してロボットを完成させることができたのでこの点数とした。計画性については発表前日まで調整していて、日程的に計画通りとはいかなかったのでこの点数とした。最後に成果物に関して、コロナ禍によりロボット製作に時間がかかってしまったということと、十分なフィードバックを得られなかったのでこの点数とした。

以上の理由により、私は上記のような自己評価を行なった。

3. 共同作業者によるコメント

同一グループのメンバー**全員**からのコメントをもらってください。とくに、チームの中での自分の作業の良かったところ、問題のあったところなどについて。

コメンター氏名 小山内駿輔:

1年時に学習した Processing の内容を生かしながら Raspberry Pi と Arduino の連携や私たちのグループのロボットの要である表情づくりを担当してくれました。作成された表情は非常に愛らしく、設定した課題及びコンセプトの達成に大きく貢献してくれたと思います。また、作業で行き詰った時などは励ましてくれたり、解決案を出してくれたりなど、非常に助けてもらいました。

サイン	

コメンター氏名 田澤卓也:

ジェスチャーの実装で、表情の変化と合わせるため積極的にコミュニケーションを取ることができました。ジェスチャーを考える段階で具体的な表情がすでにいくつかできていたので、表情と 筐体の仕様と合わせた「愛らしい」ジェスチャーの仮決めがしやすく作業に取り組みやすくなり サイン

3. 担当教員によるコメント

必要に応じて、担当教員からコメントをもらってください。ただし、サインは忘れずにもらってください。

教員サイン 三上貞芳 教員サイン 鈴木昭二 教員サイン 高橋信行